

茨城キリスト教大学大学院 / 茨城キリスト教大学
茨城キリスト教学園高等学校 / 茨城キリスト教学園中学校
茨城キリスト教大学附属認定こども園(みらい園・せいじ園)

発行日 2022.02.15.TUE
編集・発行: 法人事務局学園広報担当

バックナンバーも含めて
学園HPでご覧いただけます →



学園内の 海が見える スポット

学園には、太平洋が一望できる
スポットが各所にあります！
今回はそんな「海が見えるスポット」
を紹介します。



中高3号館4階

海沿いに建つ大甕
駅もバッチリ眺め
ることができます。

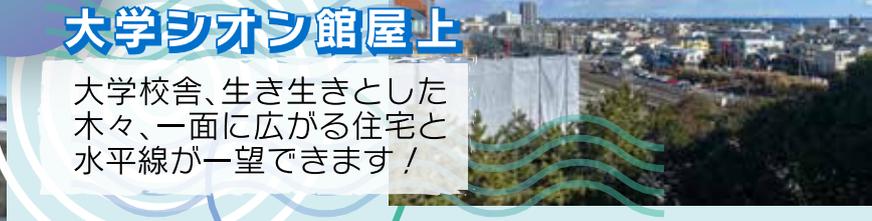
大学3号館バルコニー

桜が咲いたらより綺麗な景色です♪



大学シオン館屋上

大学校舎、生き生きとした
木々、一面に広がる住宅と
水平線が一望できます！



認定こども園 みらい園テラス

みらい園には眺めの
いいテラスがあるん
です！



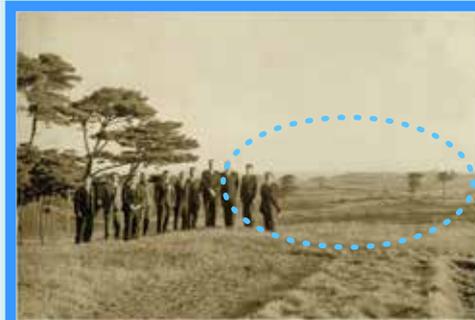
番外編

1948年ごろの キアラ館付近

昔はそこまで背の高い建物が無く、どこから
でも海を見ることができました。
立ち並ぶ木々などは、皆さんも一度は見たこ
とがある学園創設者たちの写真の背景と同
じ風景ですね。

大学図書館屋上

大学1号館竣工前の
今しか見られない景色！



IC with U プロジェクト

茨城キリスト教大学では、2020年度から地域の《多文化協働(共生)社会》の構築に取り組んでいます。
2021年度からは、これらをより広範囲・本格的に推進するために、
外国にルーツがある子どもたちの学習支援を中心とした、学内横断プロジェクトを始動させました。

日本の現状

日本語指導が必要な児童生徒数※の推移

※小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、義務教育学校、特別支援学校

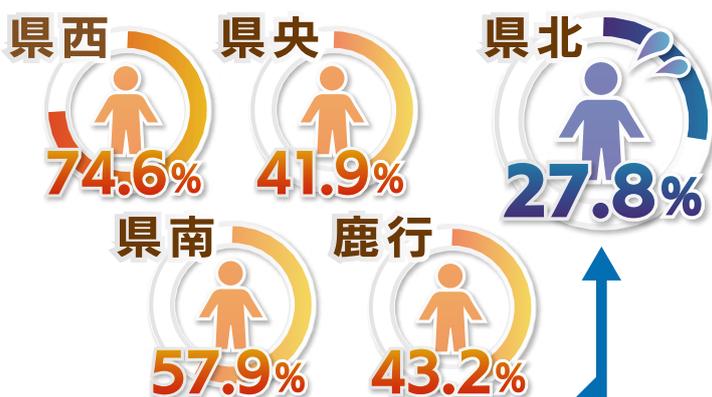
10年間の対象児童数 茨城県の対象児童数



出典:文科省『日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査(平成30年度)の結果について』

茨城県の現状

日本語指導教員のサポートを受けている子どもの割合



県北地域はサポート対象となる子どもが散在しているため、支援が行き届きにくい。

出典:茨城県『令和3年度帰国及び外国人児童生徒等日本語指導対応教員加配校』

IC with U プロジェクト 3つの取り組み

学習支援

近隣小学校の日本語支援対象者の日本語学習支援

外国人教育支援演習(授業)

子育て支援室アンネローゼでの就学前児童の支援

日本語ボランティアサークルの発足

外国にルーツのある子どもたちに対する日本語学習支援

地域への理解・浸透

異文化理解への素地づくり

近隣小学校の日本人児童に海外文化を紹介

多文化協働演習(授業)

本学留学生による地域市民への講座

フードバンクなどの新事業

本学生の人材育成

《多文化協働クリエイター》の育成

外国にルーツのある子どもたちの学習支援に必要な基礎課目を設定

多文化協働

日本語教育

子ども・家庭・ウェルフェア

教育の理論

実践演習

基礎講座を開講。指定単位を取得後は修了証を交付

地域への多文化協働社会の理解・浸透 (多文化協働演習)



本学文学部文化交流学科の「多文化協働演習」の授業では、地域の異文化理解の素地を作るべく、日立市内の小学校へ出向いて海外文化紹介の授業を行っています。

この日は、小学校6年生の児童を対象に、本学学生・留学生・本高校の留学生が協働して、留学生の母国であるインドネシア・キルギス・ドイツ・フィリピン・ベトナムの文化や伝統について紹介しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で日本へ入国できない留学生が多数いる状況ではありましたが、オンライン会議システムを活用して、海外から自国の文化や伝統について紹介してくれました。

本学学生がデザインした「ICパスポート」を持った小学生が、「出国し話を聞きに行く」という、非常にユニークな仕組みをとっています。



みなさんにメッセージ

岩間信之(文化交流学科教授/本学 地域・国際交流センター長)

外国人は隣人でありパートナー、住みよい街をつくる共同体の一部です。これからの私たちには“多文化協働(共生)社会”で生き抜く力が必須となってきました。

本学では、特にこれから社会に羽ばたいていく学生・生徒・児童に対し、多文化協働の理解と実践の機会を作っていきたいと考えています。積極的な各種イベント・プロジェクトへのご参加をお待ちしています。



QRコード
取り組み
全編は
こちらを
チェック!
(学園HPへ遷移します)

SEE

IC interview

インタビュー

すてきな取り組みをしている
「イネ!」な学園の人々を紹介!

interview No. 1: 女子陸上部駅伝チーム監督
関山友子先生



インタビューフルバージョンは
こちらをチェック!
(学園HPへ遷移します)



関山友子 先生

(高校・保健体育教諭)

出身: 茨城県常陸太田市

本高校陸上部卒業生

趣味: 料理、宝塚観劇

高校女子駅伝 チームの軌跡

■今年の全国駅伝の感想

今年もコロナ禍での開催となりましたが、何のトラブルもなく選手たちが走りきることができたことに対する、関わってくださった全ての人への感謝の気持ちが一番です。本当にありがとうございました。

■これまでの指導方法

私は常に“生徒が失敗するタイミング”を狙っています。こう言ってしまうと意地悪に聞こえるかもしれませんが、失敗すると、私が生徒に“問いかけるチャンス”ができるんです! 基本的に私は、①生徒に目標を宣言させて、②自主的に考え・行動させる。③成功したら褒めて、失敗した時には反省と改善点を問いかける…というような流れで指導をしています。失敗したことについての想いと次につなげるための策を、自分の頭で徹底的に考えさせるんです。

■指導者・管理する立場の人に向けて

自分の受け持つ子どもたちには“失敗しないような方法”を教えるのではなく、“失敗した時にどうするか”考えさせる時間を与え、指導者・管理する立場の人として壁打ちしてあげるほうが確実に伸びると思います。自分で考えさせて“納得”しないと、「次こそ頑張ろう!」と這い上がる力も生半可なものになってしまいます。本気で考え抜いて、自分で納得したからこそ、未来に向けて修正できるんです。

■学生・生徒に向けて

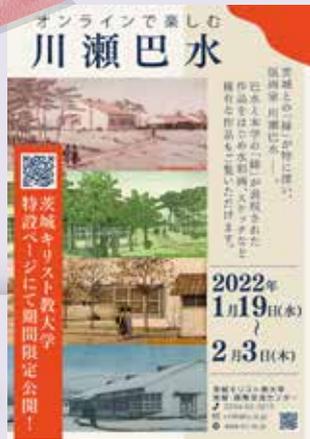
「自分軸を持って物事を決められるようになってほしい」です。学生生活では様々な学びや指導を受けます。しかし、最終的にそれを受けて行動するのは自分自身です。与えられた環境で、今できることを最大限創意工夫して自分で選ぶことができているならば、たとえ失敗しても人のせいにはしたり、過度に悔いることなく、努力してきた結果を前向きに受け止め、次回に活かせるはずですよ。



ABOUT 高校
女子陸上部
駅伝チーム

- ✓ 2021年12月26日(日)女子第33回全国高校駅伝競走大会(京都市)出場、1時間12分50秒、27位でゴール
- ✓ 監督の関山先生はチームを全国大会に率いて10回目

H TOPICS



水戸駅に新校舎の ブライトピラーが 掲出されました

1月の1か月間、水戸駅改札前の柱に新校舎2棟を紹介したブライトピラーを掲出しました。

ブライトピラーとは、柱の中をくりぬいたような展示方法。通常のポスターとは違った広がりを楽しめました。

新校舎の竣工はもう間もなく！
詳細は学園ホームページ
をご覧ください。

一般・推薦 両入試終了！

推薦入試・一般入試、感染症対策を徹底して行い無事に終了しました。試験を終えた中学生が緊張感から解放され笑顔で歩いているのを見ると、こちらホッとします。「学園の広さ」が魅力で本校を選んでくれる人が多いのも本校の特徴です。

次は入学式でお会い
できることを
楽しみにして
おります。



川瀬巴水オンライン 展示会が開催されました

創設当初の当学園と深い関係で結ばれていた、大正・昭和期の版画家・川瀬巴水。近年、注目度は急上昇しています。そこで、本学所蔵の作品を中心に氏のオンライン展覧会を開催し、述べ1,082人に鑑賞いただきました。大学新1号館竣工後、リアル展覧会を開催予定です。どうぞ楽しみにお待ちしております。

中高記事ページ



ブライトピラー
詳細はコチラ！



クリスマス礼拝を 行いました！

年末のことですが、毎年恒例のクリスマス礼拝が行われました。第1部では宗教委員の聖書朗読と全校生徒の讃美歌による「降誕物語」を、そして第2部では学園チャプレンである野口先生からメッセージをいただきました。新型コロナウイルス感染症対策で全員がマスクをして行いましたが、本校ならではの厳かな雰囲気での礼拝となりました。

音楽劇を 観ました！

茨城キリスト教大学の児童教育学科 幼児保育専攻の学生が、ゼミ発表として音楽劇を行なってくれました。園児たちは、劇を通して様々な楽器の音色や歌に触れたり一緒に手遊びを楽しんだりしながら、夢中になって観ていました。

大学生との交流も
嬉しい時間と
なりました。



アンケートに
ご協力
ください！

アンケートは
こちらから



ご意見・ご感想はもちろん、
こんな人・活動を取り上げて
ほしい！などネタ提供もお待ち
しています！

本ニュースレターに関する
問い合わせ先:gakuenkoho@icc.ac.jp
法人事務局 学園広報担当 新妻 幹生
[電話の場合は、0294-52-3215(代)]

編集の一と



学園広報 にいつま もとみ
新妻 幹生

こんにちは、学園広報の新妻です。学園ニュースレター『つなぐ』も無事にvol.2を発行することができました。創刊号発行後「コロナ禍の教職員の尽力に感謝するとともに、理事長のお話に向けて気持ち新たにしたい機会になりました。」「普段子どもたちの行事スナップを見る機会がないので楽しく拝見しました。」という嬉しいご感想をいただきました。

2月になって、今期の棚卸しや振り返り、来期の準備が少しずつ始まっているのではないのでしょうか。広報においては、今回特集したIC with Uや新校舎のように、来期の“お披露目”に関わる機会が増えてきました。このようなご時世であっても、未来に向かって日々着々と歩みを進めている方々がいます。そんな人たちをしっかりと照らし、応援できるような部署になっていきたいと思っております。(2022.02.15)

